国土交通省
関東地方整備局
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, Kanto Regional Development Bureau.
Press Release

令和８年４月２２日
利根川水系渇水対策連絡協議会
（事務局:関東地方整備局）

令和８年度 第１回利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会の開催結果

令和８年４月２２日に開催した令和８年度 第１回利根川水系渇水対策連絡協議会幹事会（春季定例会）の開催結果をお知らせいたします。

１．開催状況

日時 ： 令和８年４月２２日（水） １０：００～１１：００
場所 ： Web 会議
構成 ： 国土交通省関東地方整備局、経済産業省関東経済産業局、
農林水産省関東農政局、東京都、千葉県、埼玉県、茨城県
群馬県、栃木県、独立行政法人水資源機構
目的 ： 利根川水系の渇水時における円滑な水需要の調整を図るため

２．開催結果

別紙のとおり

＜発表記者クラブ＞　竹芝記者クラブ　神奈川建設記者会　埼玉県政記者クラブ　東京都庁記者クラブ
千葉県政記者会　茨城県政記者クラブ　栃木県政記者クラブ　刀水クラブ･テレビ記者会
水資源記者クラブ

＜問い合わせ先＞
関東地方整備局 河川部
電話：０４８－６０１－３１５１（代表）　FAX：０４８－６００－１３７９
河川環境課　課長　土谷（内線：３６５１）
建設専門官　田島（内線：３６５２）
水政課　水政調整官　関口（内線：３５１５）
課長　井上（内線：３５５１）
課長補佐　菅間（内線：３５５７）

別 紙

現状と今後の対応

（１）現状

- 降水量（栗橋地点上流域平均）の状況

  1 月の降水量は 21㎜（平均値に対する割合 49%）

  2 月の降水量は 19㎜（平均値に対する割合 41%）

  3 月の降水量は 64㎜（平均値に対する割合 93%）

  4 月 21 日 0 時までの累加降水量は 56㎜（4 月の月間降水量の平均値は 90㎜）

- 積雪の状況（4 月 20 日 9 時現在）

  藤原ダム地点　積雪深 0cm（3 月 15 日消雪）

  尾瀬沼地点　　積雪深 74cm（平均値 160cm の 46%）

- 利根川上流 9 ダムの貯水状況（4 月 21 日 0 時現在）

  貯水量は同時期の平均値を上回っています。

  貯水量 4 億 167 万 m3、貯水率 73%、平均値に対する割合 112%

（２）今後の見通し

- 気象庁発表の 1 ヶ月予報（令和 8 年 4 月 18 日から令和 8 年 5 月 17 日までの天候見通し）によると、降水量は「多い」と「平年並」の確率は合わせて 80%となっています。
- 9 ダムの内 1 ダム（薗原）は満水となりましたが、今後、農業用水の利用が徐々に増加し、ダムからの放流量が増え貯水量が減少する時期になります。本年は積雪が平均を下回り、平年よりも早いペースで融雪が進んでいることから、今後の降雨状況によっては、ダムの貯水量が急激に減少していくことも考えられます。
- 鬼怒川上流 4 ダムの貯水量は、現在、同時期の平均値と同程度ですが、今後は農業用水の利用が急増するため、ダムの貯水量が減少することが見込まれます。更に、降雨状況によっては、ダムの貯水量が急激に減少することも考えられます。

（３）今後の対応

- 利根川 9 ダム、鬼怒川 4 ダム及び北千葉導水路等下流施設では、河川の流量、各ダムの貯水状況、農業用水や都市用水の取水状況を十分考慮するとともに、既存施設を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行ってまいります。
- 利根川 9 ダムの貯水量や積雪及び降水量の状況等を引き続き注視するとともに、情報提供を積極的に行ってまいります。
- 利根川水系渇水対策連絡協議会としては、必要に応じて、幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、令和 3 年 12 月 16 日に策定した利根川水系渇水対応タイムラインに基づき関係機関による協議の下、機動的に行っていきます。

資　料

令和８年度 第１回利根川水系渇水
対策連絡協議会幹事会（春季定例会）

利根川上流ダム群等の現状と今後の見通しについて

奥利根湖と利根川源流の山々（令和８年４月２０日撮影）

令和８年４月２２日

関 東 地 方 整 備 局

１．利根川上流９ダム等の現状

（１）利根川

１）栗橋地点上流域平均降水量の状況（令和 8 年 4 月 21 日 0 時までの降水量）

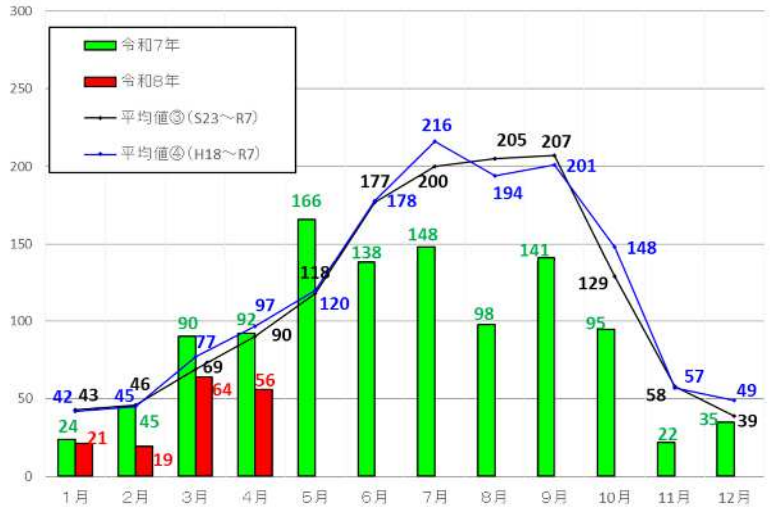
《令和 7 年》

6 月以降の降水量は、平均値（昭和 23 年～令和 6 年の 77 年間の平均）を下回り続けました。

《令和 8 年》

1 月、2 月の降水量は、平均値（昭和 23 年～令和 7 年の 78 年間の平均）の半分以下となり、3 月は平均値 69㎜ と同程度となる 64 ㎜の降水量がありましたが、4 月は 21 日 0 時時点で平均値 90㎜ の約 6 割に相当する 56 ㎜ となっています。

（図－1、表－1 参照）



図－1　利根川栗橋地点上流域平均降水量（令和 8 年 4 月 21 日 0 時まで）

表－1　利根川栗橋上流域平均降水量（令和 8 年 4 月 21 日 0 時まで）　単位：㎜

単位（㎜）	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘　要
平成２７年	57	36	63	86	45	221	248	207	300	29	127	33	1,452	－
平成２８年	69	36	57	104	56	156	134	328	312	55	68	56	1,431	－
平成２９年	61	37	56	73	95	97	240	274	113	368	18	22	1,454	－
平成３０年	39	17	108	69	128	114	178	187	254	56	23	35	1,208	－
令和元年	26	17	75	96	108	248	249	195	95	489	56	36	1,690	－
令和２年	76	25	99	134	104	211	278	81	163	146	10	29	1,356	－
令和３年	34	45	102	78	95	181	256	271	151	77	59	70	1,419	－
令和４年	28	47	58	127	142	134	282	118	217	65	70	36	1,324	－
令和５年	22	26	86	64	138	270	90	193	154	102	48	23	1,216	－
令和６年	49	65	135	87	130	145	148	306	154	124	76	25	1,444	－
平均値①（S23～R6）	44	46	69	90	117	177	200	207	208	130	59	39	1,386	－
平均値②（H17～R6）	45	45	75	94	114	175	225	203	201	148	58	50	1,433	－
令和７年	24	45	90	92	166	138	148	98	141	95	22	35	1,094	－
平均値①に対する割合	55%	98%	130%	102%	142%	78%	74%	47%	68%	73%	37%	90%	79%	－
平均値③（S23～R7）	43	46	69	90	118	177	200	205	207	129	58	39	1,381	－
平均値④（H18～R7）	42	45	77	97	120	178	216	194	201	148	57	49	1,424	－
令和８年	21	19	64	56									160	－
平均値③に対する割合	49%	41%	93%	62%									12%	－

注）平均値①、③は各年に対してデータが存在する期間（77 ヶ年又は 78 ヶ年）を平均したもの
　　平均値②、④は降水量の変化傾向を確認するために直近 20 ヶ年を平均したもの

２）矢木沢ダム地点、奈良俣ダム地点、藤原ダム地点及び尾瀬沼地点の雪の状況
（令和７年～令和８年　冬期）

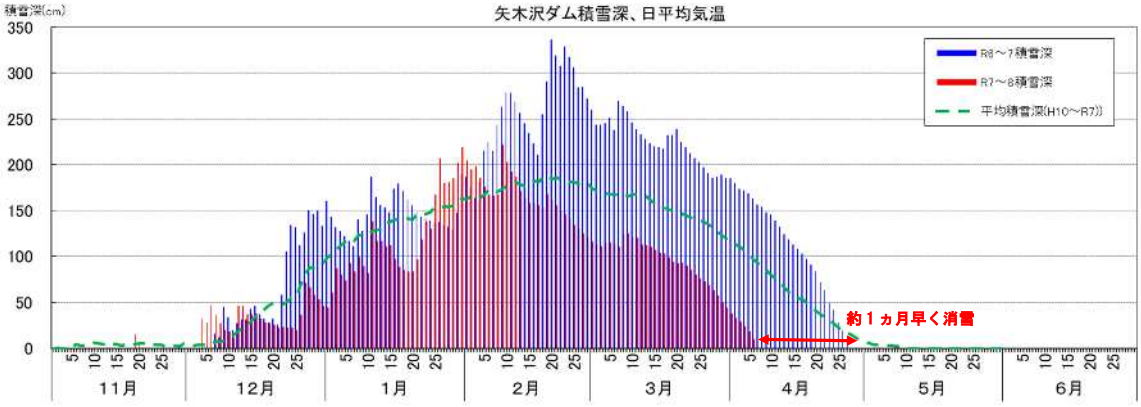
《積雪深・降雪量》

今冬の各地点の積雪深は、２月下旬以降、平均を下回る状況でした。また、各地点の雪解けは、平均と比べて約１ヶ月早い状況となりました。

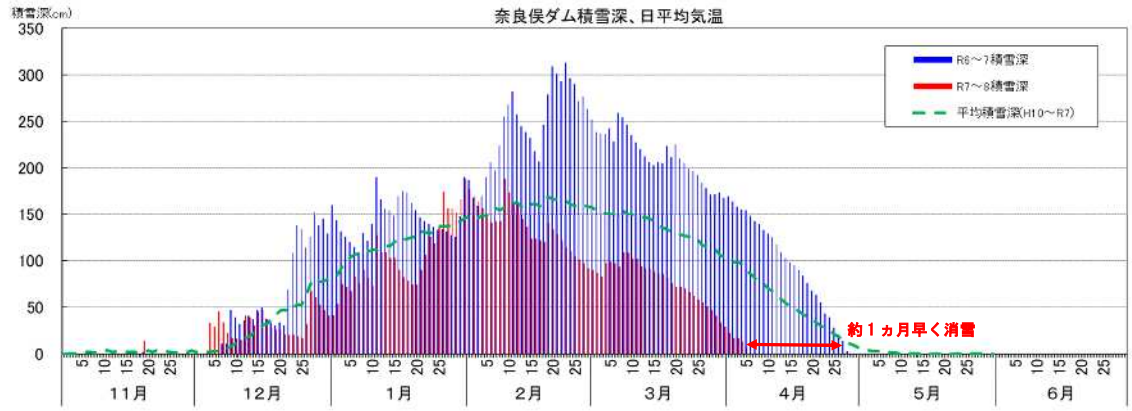
藤原地点の気温は、月平均で平年に対して、11 月、12 月は±0℃、１月は－1℃、２月、３月は＋2℃となっています。４月は 20 日まででで＋4℃となっています。

（図－2～7 参照）

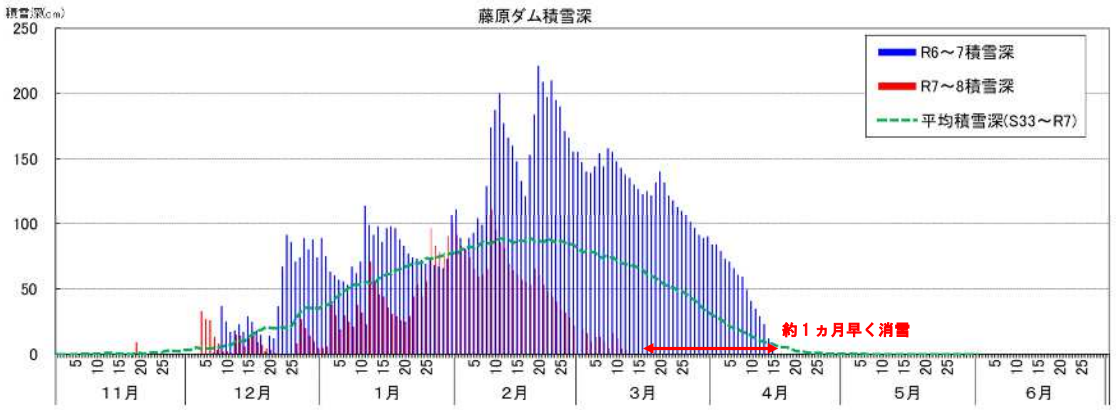
図－2　観測地点の位置



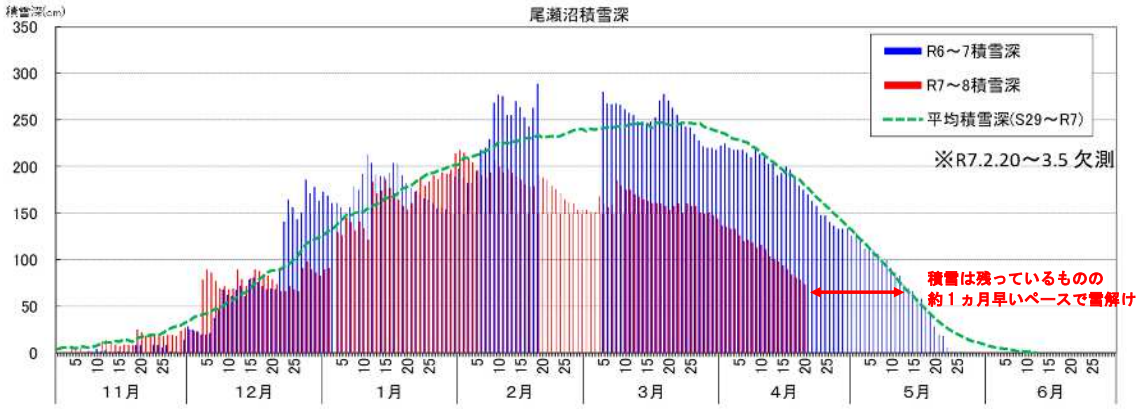
図－3　矢木沢ダム地点の積雪深（令和８年４月 20 日９時まで）



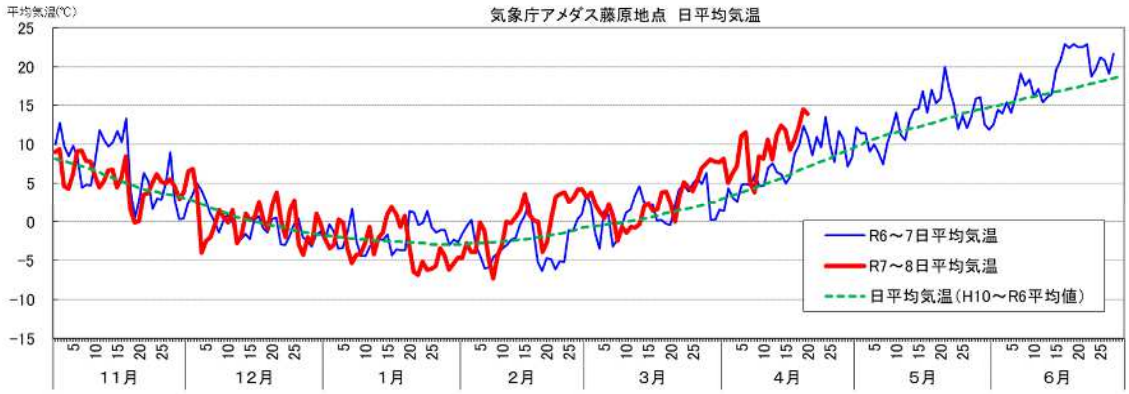
図－4　奈良俣ダム地点の積雪深（令和８年４月 20 日９時まで）



図－5　藤原ダム地点の積雪深（令和 8 年 4 月 20 日 9 時まで）



図－6　尾瀬沼地点の積雪深（令和 8 年 4 月 20 日 9 時まで）

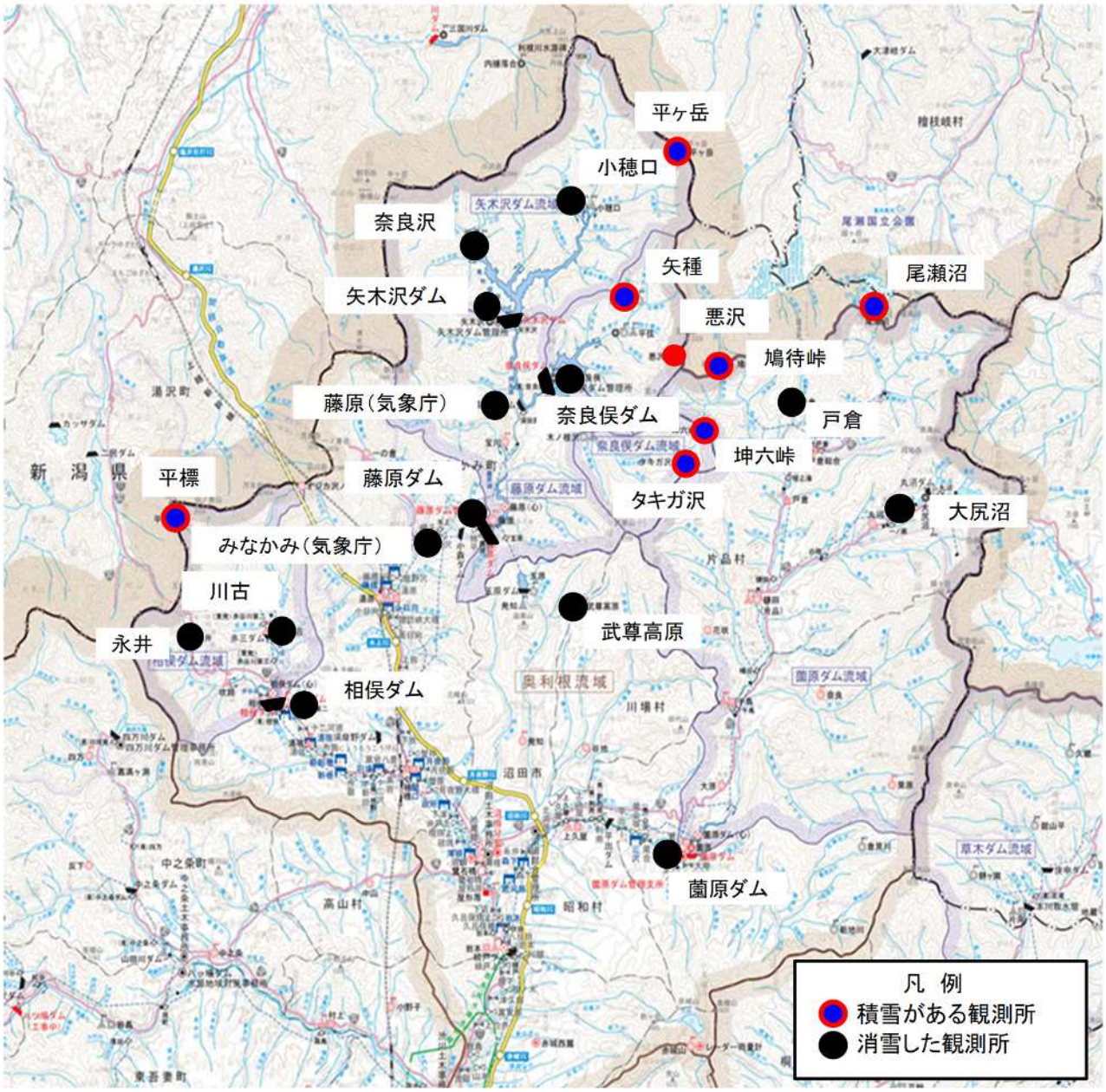


図－7　藤原地点日平均気温（令和 8 年 4 月 20 日まで）

３）現在の積雪深状況

利根川上流域において 4 月 20 日 9 時現在で積雪が残っている地点を図に示します。標高の高いエリアを除き、すでに消雪しています。

（図－8 参照）



図－8　積雪観測所の消雪状況

４）利根川上流９ダムの貯水状況等（令和８年４月21日０時現在）

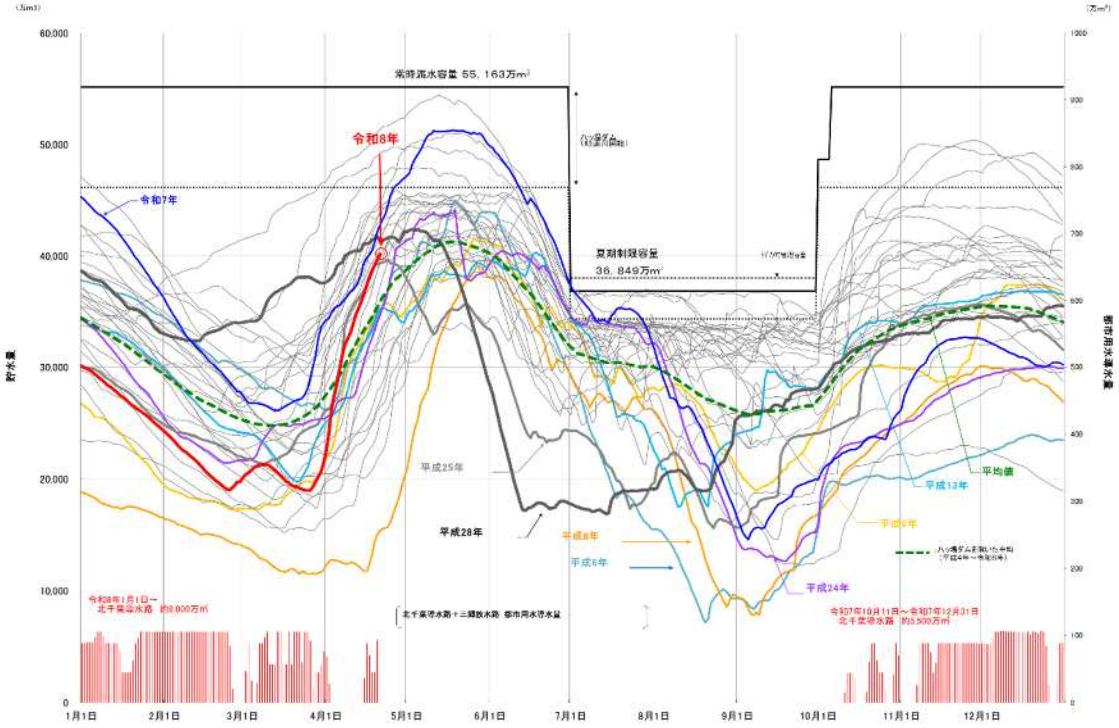
《令和７年》

９月以降は、台風15号や前線等に伴う降雨の影響、さらに農業用水の取水量の減少によって貯水量は回復傾向となりましたが、秋雨等のまとまった降雨がなく、11月下旬から河川の流量減少に伴う都市用水を主とした用水確保のための補給が必要となり、貯水量は減少しました。

《令和８年》

３月下旬までの補給によって貯水量は減少しましたが、その後は降雨や気温の影響から融雪等が進行して貯水量は増加傾向となり、令和８年４月21日０時時点の合計貯水量は４億167万m3（貯水率約73%）となっています。

（図－9、表－2参照）



図－9　利根川上流９ダム合計貯水量図（令和８年４月21日０時現在）

表－2　利根川上流９ダム　ダム別貯水量（令和８年４月21日０時現在）

ダム名	有効容量（万m3）	貯水量（万m3）	貯水率（%）
矢木沢ダム	11,550	10,558	91
奈良俣ダム	8,500	7,672	90
藤原ダム	3,101	2,725	88
相俣ダム	2,000	1,689	84
薗原ダム	1,322	1,006	76
八ッ場ダム	9,000	7,200	80
下久保ダム	12,000	3,512	29
草木ダム	5,050	4,481	89
渡良瀬貯水池	2,640	1,324	50
９ダム合計	55,163	40,167	73
８ダム合計の平均値（平成４年～令和７年）		35,859	（平均値に対して112%）

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

※過去の貯水量平均値は、八ッ場ダム貯水量を含めず８ダムの合計貯水量で計算したもの

５）北千葉導水路、三郷放水路の運用状況

令和７年９月以降に利根川上流９ダムの貯水量は回復傾向となりましたが、秋雨等によるまとまった降雨がなかったため貯水量は大きく回復せず、また、11 月下旬から河川の流量減少に伴い、都市用水を主とした用水確保のための補給が必要となり、春期のダム補給が厳しくなることが心配されたことから、上流ダム群の貯水量を温存するために下流施設を活用することとし、令和７年 10 月 11 日以降、断続的に北千葉導水路により利根川下流部から江戸川への導水を行いました。

流況の急激な低減、降雨・雪解けによる流況回復状況等を常時監視しながら、必要なタイミングで必要な水量を下流施設から導水するきめ細やかな運用を実施しています。

令和７年 10 月 11 日以降における合計導水量は、令和８年４月 21 日０時点までで、約 13,500 万㎥（163 日間）となっています。

（図－9 参照）

６）下久保ダムの貯水状況等

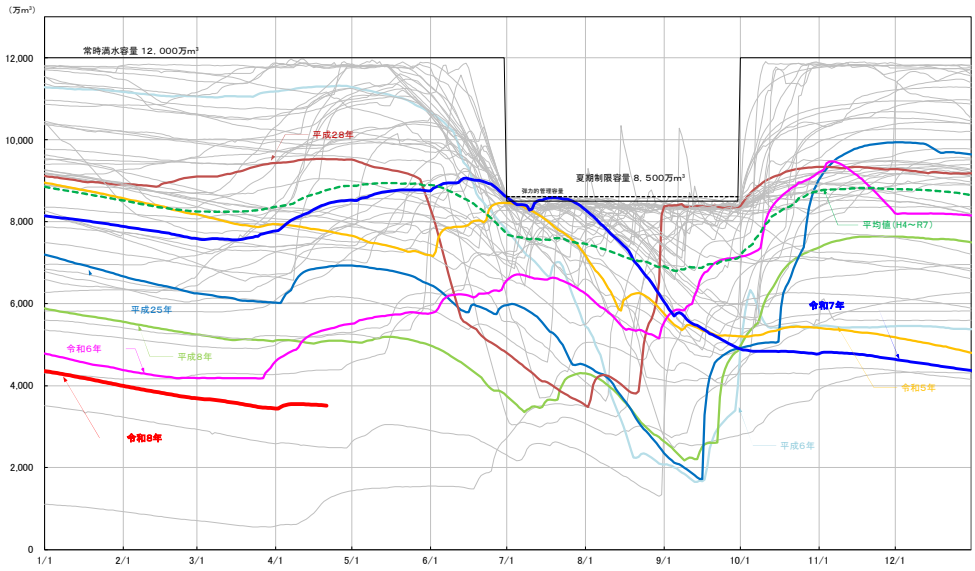
《令和７年》

８月より河川流量の著しい低減に伴いダムからの補給量が増加しました。9 月以降は、台風 15 号や前線等に伴う降雨の影響、さらに農業用水の取水量の減少によってダムからの補給量は軽減されましたが、貯水量は平均値を下回ったまま減少を続けました。

《令和８年》

４月上旬からは、降雨等の影響により貯水量はほぼ横ばいで推移しており、令和８年４月 21 日０時時点の合計貯水量は 3,512 万 m3（貯水率約 29%）となっています。

（図－10 参照）



図－10　下久保ダム貯水量図（令和８年４月 21 日０時現在）

令和８年４月 17 日時点の貯水位の状況

（２）鬼怒川

１）佐貫地点上流域平均降水量の状況（令和８年４月21日０時までの降水量）

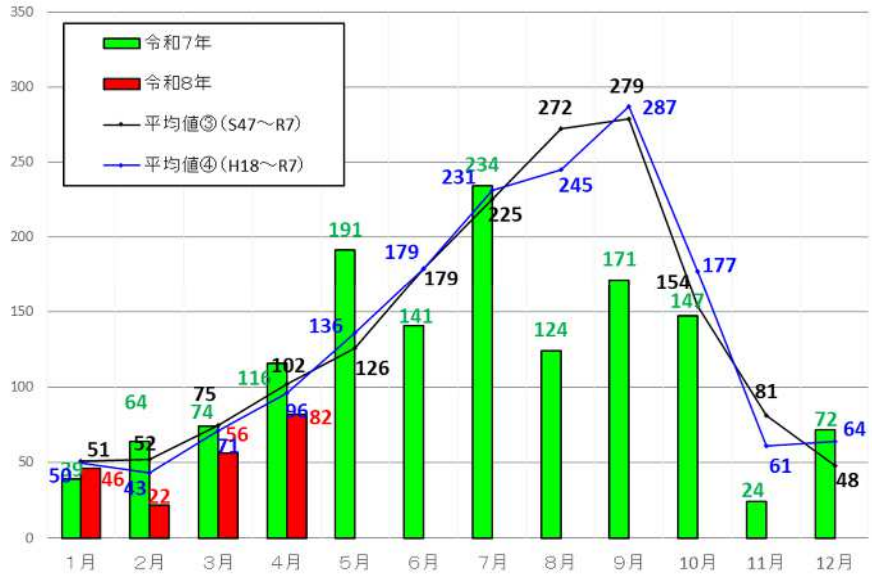
《令和７年》

８月から11月まで、降水量は平均値（昭和47年～令和６年の53年間の平均）を下回り続けました。

《令和８年》

１月は平均値（昭和47年～令和７年の54年間の平均）51㎜と同程度となる46㎜の降水量がありましたが、２月以降は平均値を下回る降水量となり、４月の降水量は、21日０時時点で、平均値102㎜の約８割に相当する82 ㎜となっています。

（図－11、表－3 参照）



図－11　鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量（令和８年４月21日０時まで）

表－3　鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量（令和８年４月21日０時まで）単位：㎜

単位(㎜)	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	合 計	摘 要
平成２７年	55	67	82	68	61	204	276	201	624	28	112	47	1,825	
平成２８年	66	35	31	109	63	138	94	401	306	49	53	47	1,392	
平成２９年	91	45	38	74	93	95	242	337	200	392	18	62	1,687	
平成３０年	73	19	174	74	132	94	240	330	328	107	31	51	1,653	
令和元年	23	12	71	71	149	245	251	266	132	590	64	25	1,899	
令和２年	106	19	78	172	108	135	231	102	369	120	12	44	1,496	
令和３年	34	56	125	101	99	186	255	364	169	91	111	116	1,707	―
令和４年	56	53	61	115	207	145	296	162	239	77	62	48	1,521	
令和５年	30	26	63	68	150	248	87	321	211	116	87	13	1,420	―
令和６年	74	43	133	76	162	109	169	359	185	128	82	41	1,561	―
平均値①(S47～R6)	51	51	75	102	125	179	225	275	281	154	82	47	1,647	
平均値②(H17～R6)	51	42	71	95	133	181	231	251	293	178	63	63	1,652	-
令和７年	39	64	74	116	191	141	234	124	171	147	24	72	1,397	―
平均値①に対する割合	76%	125%	99%	114%	153%	79%	104%	45%	61%	95%	29%	153%	85%	―
平均値③(S47～R7)	51	52	75	102	126	179	225	272	279	154	81	48	1,644	
平均値④(H18～R7)	50	43	71	96	136	179	231	245	287	177	61	64	1,640	-
令和８年	46	22	56	82									206	―
平均値③に対する割合	90%	42%	75%	80%									13%	―

注）平均値①、③は各年に対してデータが存在する期間（53ヶ年又は54ヶ年）を平均したもの
　　平均値②、④は降水量の変化傾向を確認するために直近20ヶ年を平均したもの

２）加仁湯地点、上馬坂地点の雪の状況

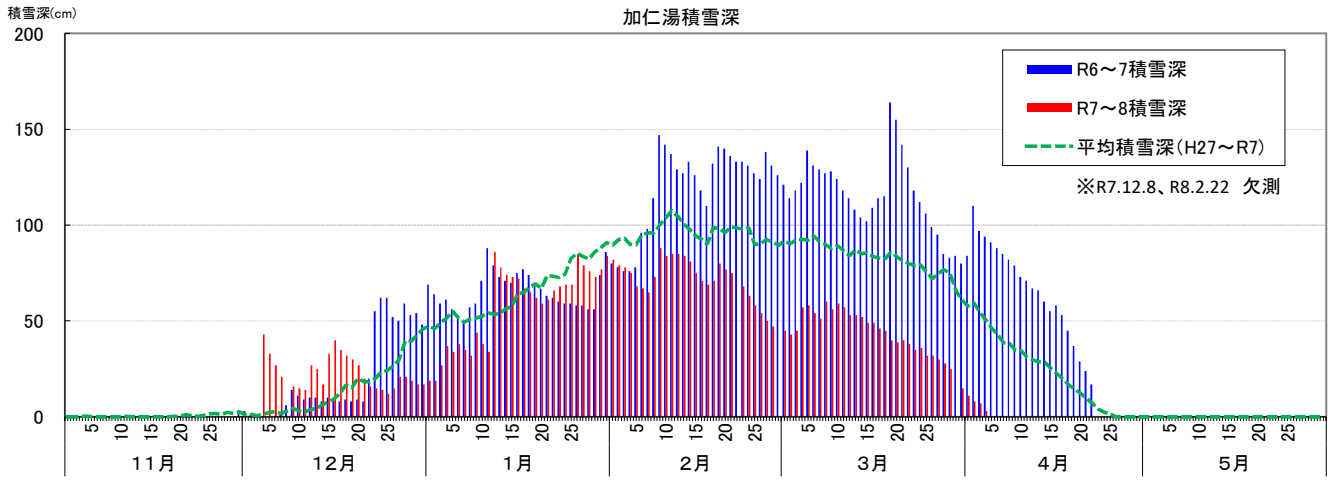
（令和７年～令和８年　冬期）

《積雪深・降雪量》

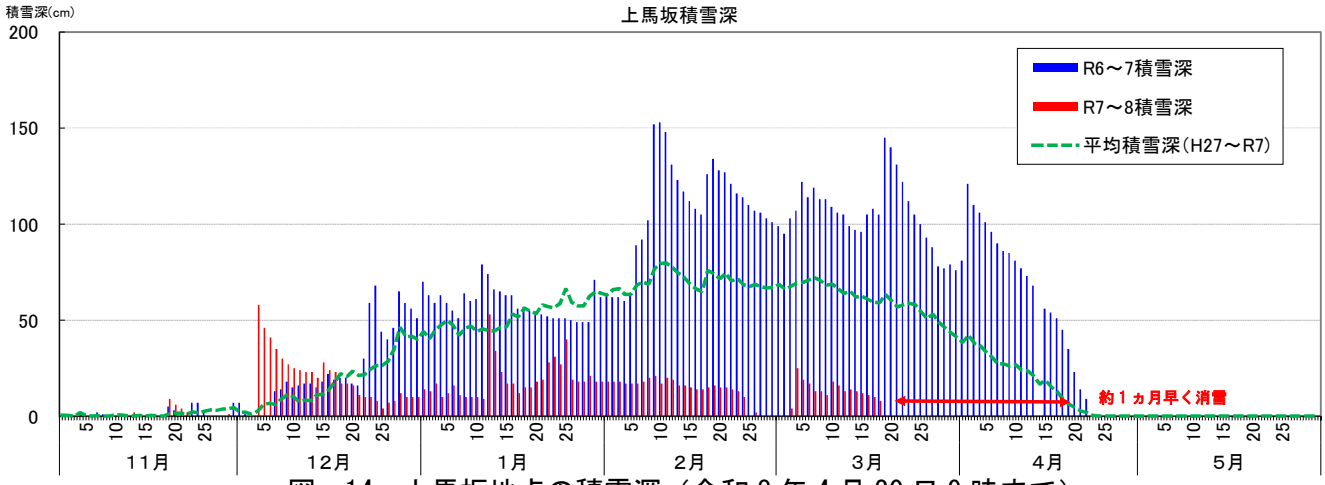
今冬の各地点の積雪深は、１月下旬以降、平均を下回る状況でした。また、上馬坂地点の雪解けは、平均と比べて約１ヶ月早い状況となりました。

（図－12～14 参照）

図－12　観測地点の位置



図－13　加仁湯地点の積雪深（令和８年４月 20 日９時まで）



図－14　上馬坂地点の積雪深（令和８年４月 20 日９時まで）

３）鬼怒川上流４ダムの貯水状況等（令和８年４月21日０時現在）

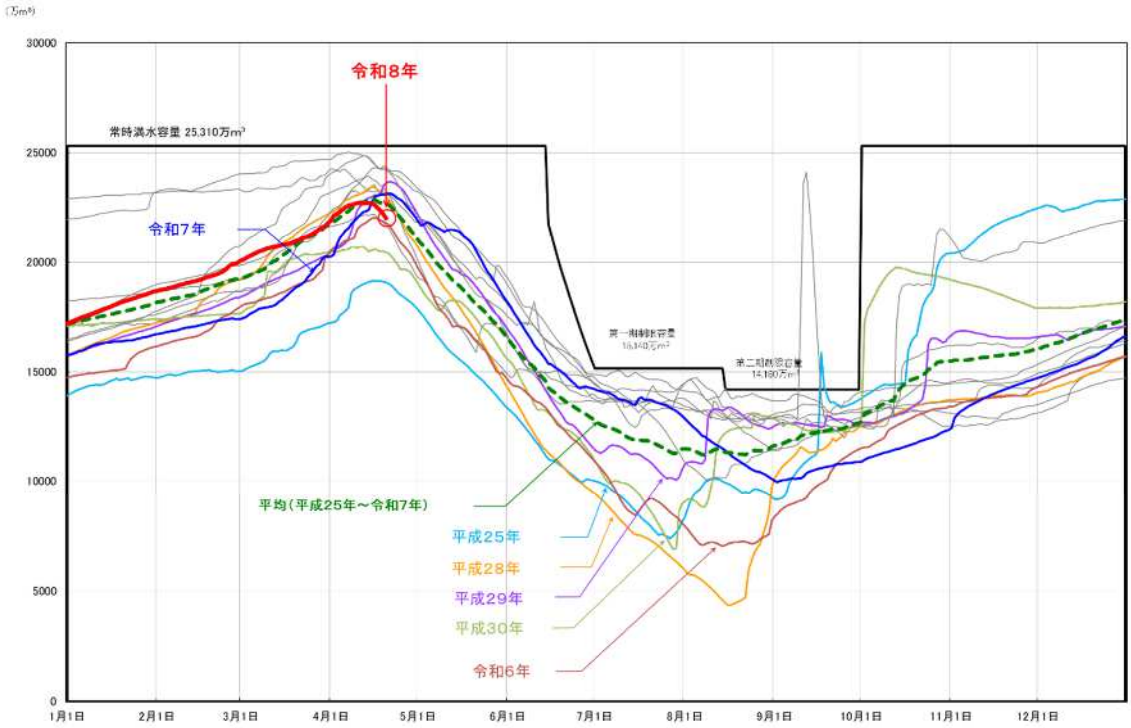
《令和７年》

９月以降、台風15号や前線等に伴う降雨の影響、さらに農業用水の取水量の減少によって、貯水量は回復傾向となりました。

《令和８年》

１月以降も貯水量は増加し続け、令和８年４月21日０時時点の合計貯水量は２億2,006万m3（貯水率約87%）となっています。

（図－15、表－4参照）



図－15　鬼怒川上流４ダム合計貯水量図（令和８年４月21日０時現在）

表－4　鬼怒川上流４ダム　ダム別貯水量（令和８年４月21日０時現在）

ダム名	有効容量（万m3）	貯水量（万m3）	貯水率（%）
五十里ダム	3,200	2,756	86
川俣ダム	7,310	7,015	96
川治ダム	7,600	6,900	91
湯西川ダム	7,200	5,335	74
４ダム合計	25,310	22,006	87
８ダム合計の平均値（平成４年～令和７年）		22,596	（平均値に対して97%）

※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

参考

（３）荒川水系

１）秋ヶ瀬地点上流域平均降水量の状況（令和 8 年 4 月 21 日 0 時までの降水量）

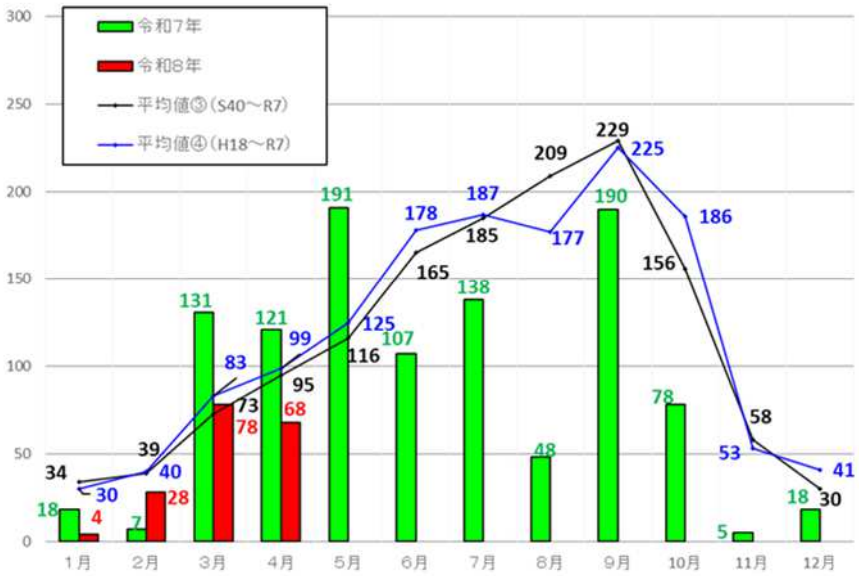
《令和 7 年》

6 月以降の降水量は、平均値（昭和 40 年～令和 6 年の 60 年間の平均）を下回り続けました。

《令和 8 年》

1 月の降水量は、平均値（昭和 40 年～令和 7 年の 61 年間の平均）34 ㎜の約 1 割である 4 ㎜と特に少ない状況となり、2 月も平均値を下回る降水量となりました。4 月の降水量は、21 日 0 時時点で平均値 95㎜ の約 7 割に相当する 68㎜ となっています。

（図－16、表－5 参照）



図－16　荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和 8 年 4 月 21 日 0 時まで）

表－5　荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（令和 8 年 4 月 21 日 0 時まで）単位：㎜

単位(㎜)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計	摘 要
平成２６年	8	179	51	51	73	512	125	182	125	286	62	28	1,682	
平成２７年	41	23	48	84	47	192	281	213	322	26	119	28	1,424	
平成２８年	75	53	74	72	44	119	90	462	247	31	87	60	1,414	
平成２９年	24	10	73	67	67	70	218	263	138	488	13	7	1,438	
平成３０年	27	17	160	53	124	118	200	184	340	44	21	24	1,312	
令和元年	10	24	97	58	91	239	225	137	166	725	80	29	1,881	
令和２年	95	11	105	186	103	221	304	56	261	209	5	3	1,559	
令和３年	36	43	110	60	102	140	288	209	144	117	51	66	1,366	
令和４年	7	26	65	162	110	159	278	123	233	109	64	25	1,361	
令和５年	6	25	86	39	142	296	47	173	173	67	47	9	1,110	－
令和６年	26	58	124	72	160	184	103	409	115	146	65	2	1,464	－
平均値①(S40～R6)	34	40	72	95	115	166	186	212	229	157	59	31	1,396	－
平均値②(H17～R6)	31	42	81	98	122	181	189	184	227	191	56	42	1,444	－
令和７年	18	7	131	121	191	107	138	48	190	78	5	18	1,052	－
平均値①に対する割合	53%	18%	182%	127%	166%	64%	74%	23%	83%	50%	8%	58%	75%	－
平均値③(S40～R7)	34	39	73	95	116	165	185	209	229	156	58	30	1,389	－
平均値④(H18～R7)	30	40	83	99	125	178	187	177	225	186	53	41	1,424	－
令和８年	4	28	78	68									178	－
平均値③に対する割合	12%	72%	107%	72%									13%	－

注）平均値①、③は各年に対してデータが存在する期間（60 ヶ年又は 61 ヶ年）を平均したもの
平均値②、④は降水量の変化傾向を確認するために直近 20 ヶ年を平均したもの

２）荒川４ダムの貯水状況等（令和８年４月21日０時現在）

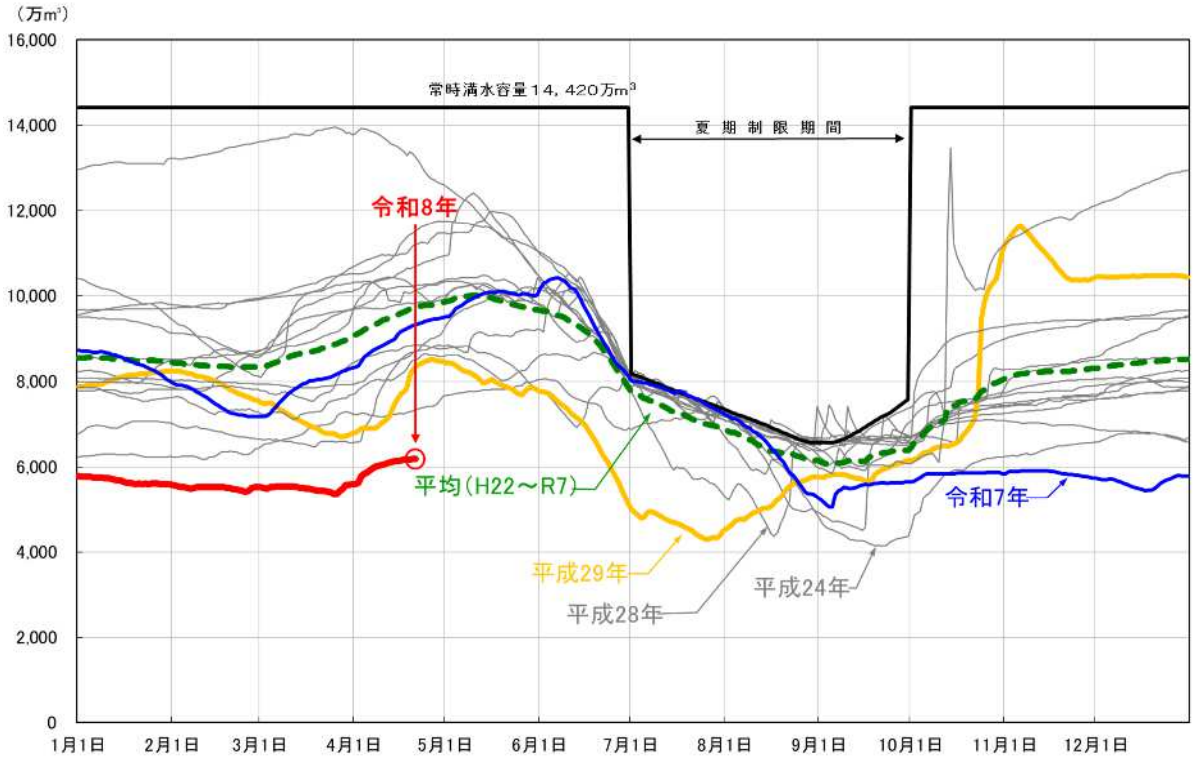
《令和７年》

荒川４ダムでは、９月以降、台風15号や前線等に伴う降雨の影響、さらに農業用水の取水量の減少により、貯水量は回復傾向にありましたが、秋雨等のまとまった降雨がなく、貯水量の大きな回復はありませんでした。

《令和８年》

１月上旬から徐々に貯水量が減少し、３月下旬から４月上旬にかけて断続的な降雨があった影響により、荒川４ダム合計の貯水量は増加傾向となりましたが、依然として滝沢ダムの管理開始以降最小の水準で推移しています。令和８年４月21日０時時点の合計貯水量は、6,180万m3（貯水率43%）となっています。

（図－17、表－6参照）



図－17　荒川４ダム合計貯水量図（令和８年４月21日０時現在）

表－6　荒川４ダム　ダム別貯水量（令和８年４月21日０時現在）

ダム名	有効容量（万m3）	貯水量（万m3）	貯水率（%）
二瀬ダム	2,000	583	29
滝沢ダム	5,800	1,919	33
浦山ダム	5,600	2,660	48
荒川貯水池	1,020	1,018	100
４ダム合計	14,420	6,180	43
８ダム合計の平均値（平成４年～令和７年）		9,740	（平均値に対して63%）

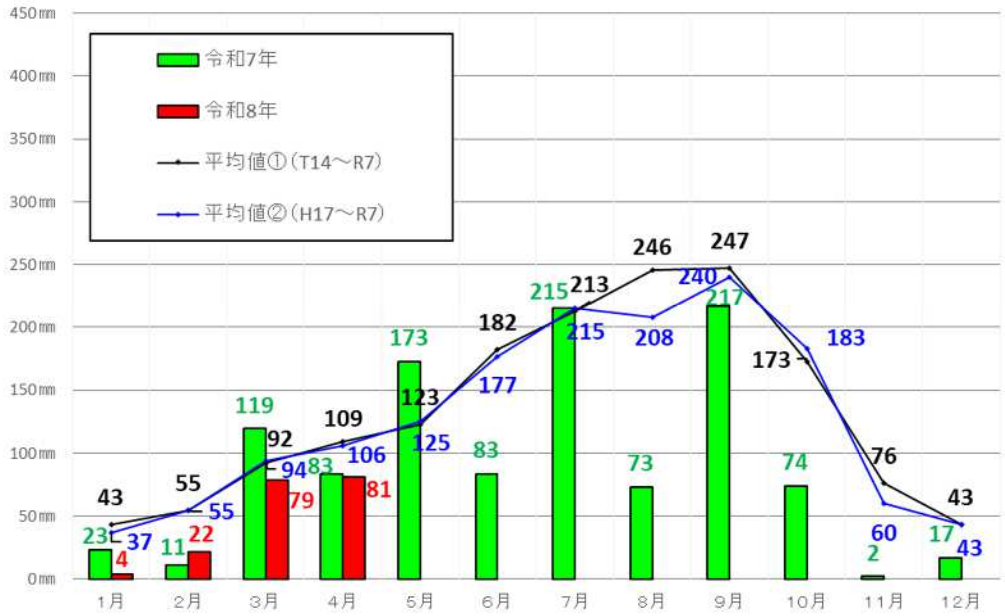
※有効容量は常時満水容量であり、貯水率は常時満水容量に対する貯水量の割合

（４）多摩川水系

１）小河内ダム地点上流域平均降水量の状況（令和 8 年 4 月 20 日 9 時までの降水量）

令和 8 年の小河内ダム地点上流域における降水量は、1 月は 4mm（平均値 43mm）、2 月は 22mm(平均値 55mm）、3 月は 79mm（平均値 92mm）で平均値以下となっています。4 月の降水量は、20 日 9 時までの累計で 81 mm(4 月の月間降水量の平均値は 109mm)となっています。

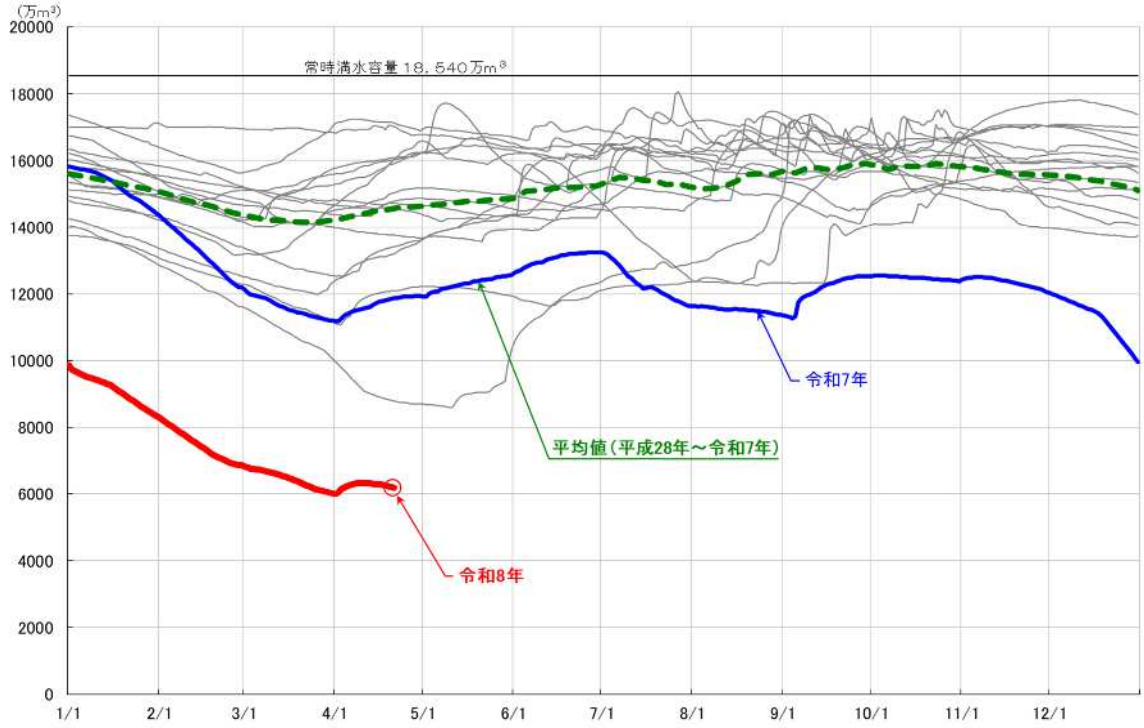
（図－18 参照）



図－18　多摩川小河内ダム地点上流域平均降水量（令和 8 年 4 月 20 日 9 時までの降水量）

２）小河内ダムの貯水状況

令和 8 年 4 月 21 日 7 時現在の貯水量は、6,203 万 m3 となっています。（図－19 参照）



図－19　多摩川小河内ダム貯水容量図（令和 8 年 4 月 21 日 7 時現在）

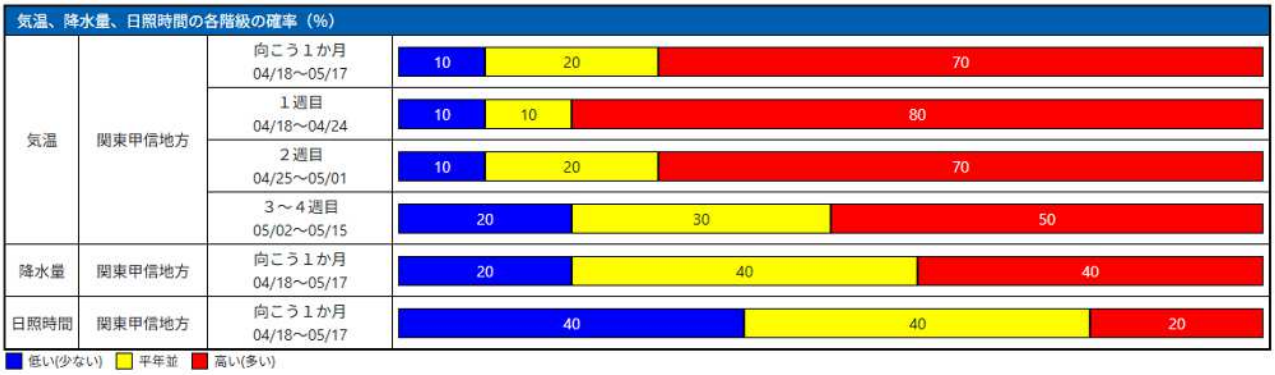
２．今後の見通し

（１）気象予報

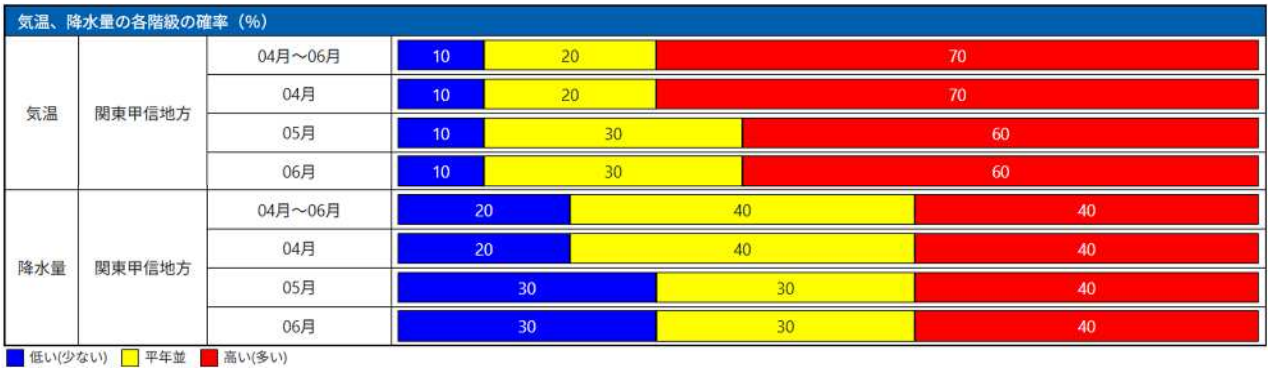
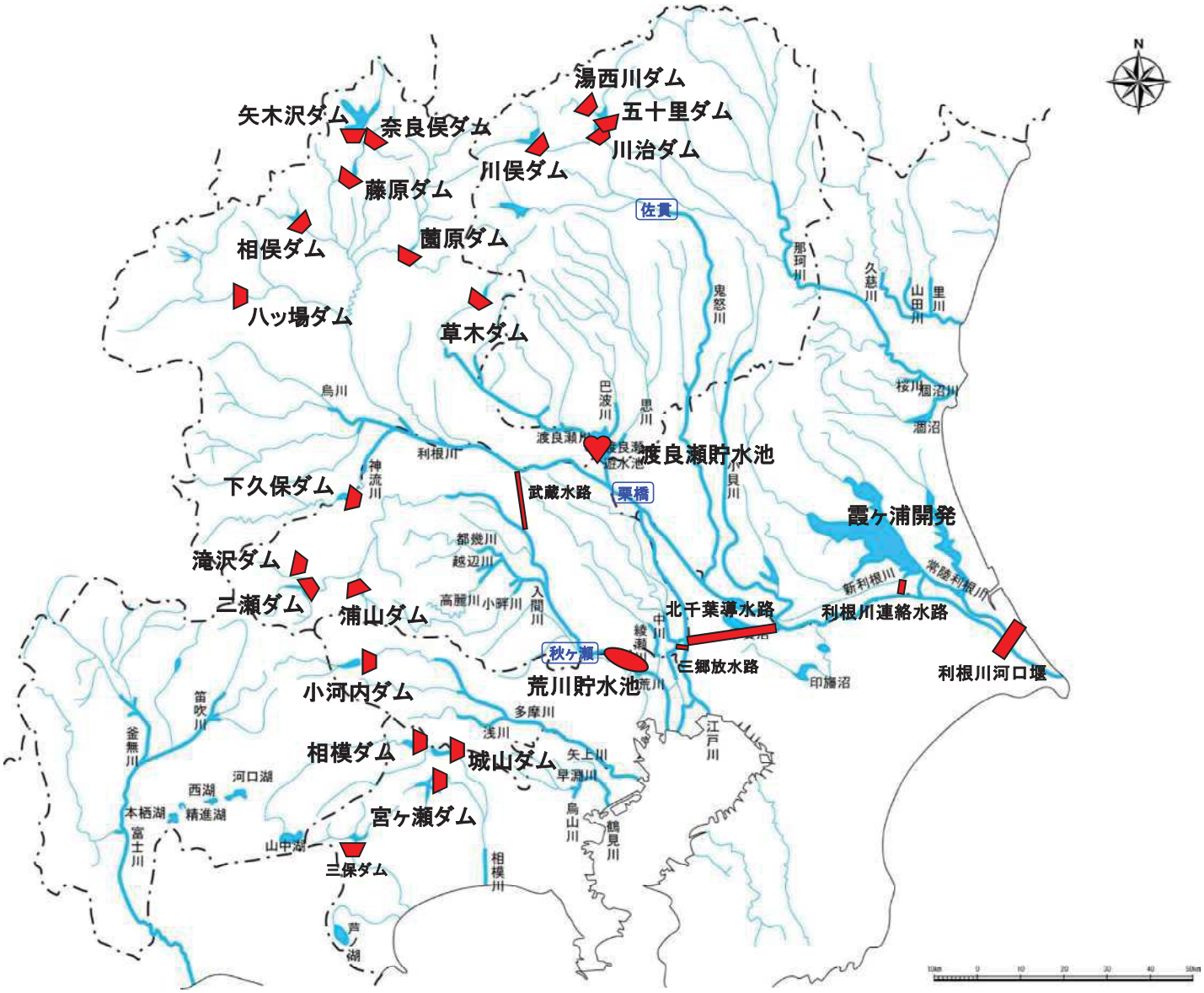
令和 8 年 4 月 16 日気象庁発表の関東甲信地方の 1 か月予報(令和 8 年 4 月 18 日から令和 8 年 5 月 17 日までの見通し)によると、向こう 1 か月の気温は「高い」の確率が 70% 、降水量は「多い」と「平年並」の確率が合わせて 80%となっています。

また、令和 8 年 3 月 24 日気象庁発表の 3 か月予報(令和 8 年 4 月から令和 8 年 6 月までの見通し)によると、向こう 3 か月の気温は「高い」の確率が 70% 、降水量は「平年並」と「多い」の確率が合わせて 80%となっています。

1 か月予報（令和 8 年 4 月 16 日発表）



3 か月予報（令和 8 年 3 月 24 日発表）



首都圏の主要な河川と水資源開発施設